

平成28年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 25	項目名	駅周辺交通誘導検討費			主要な施策の 成果 ページ	17	担当 部署	都市計画部 交通政策課
予算 科目	会計	1	一般会計		総合 計画 体系	分野	道路・交通	
	款	2	総務費			基本方針	公共交通体系の充実	
	項	1	総務管理費			施策	公共交通の充実	
	目	8	交通対策費			当初予算における区分	(新規施策)・拡大施策・重点施策・その他	
事務事業	54	交通対策調整費		↑該当するものを○で囲んでください				

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) JR草津駅、南草津駅では、駅前ロータリーおよび駅周辺道路において、公共交通と一般車両の混雑による交通渋滞が発生し、関連する公共交通の速達性や定時性等が損なわれる状況がある。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) JR草津駅、南草津駅や両駅周辺道路を利用する者
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) JR草津駅、南草津駅周辺における公共交通の利便性の向上と利用環境整備の検討を進めることで、公共交通をはじめとする道路利用者に対して安全で円滑な交通誘導を図る。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) JR草津駅、南草津駅の駅利用者アンケート調査や、両駅周辺交差点での交通量観測調査などを実施して実態把握を行うとともに、関係機関との調整等を行いながら駅周辺の改善対策案の検討を行う。

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細		・駅周辺交通誘導調査検討業務費 12,950千円					・駅周辺交通誘導調査検討業務費 11,999千円				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	予算・決算額	12,950	6,475		6,475	11,999	5,999			6,000	
	前年度比	-				-					
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)		入札により、当初予算額に対して減額となった。									
◆平成27年度 事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	0				0	0				0	

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	4	市民ニーズが高い	多くの市民が駅および駅周辺道路を利用しており、市民の関心も高いため。
	4	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	3	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	法令等による定めはないが、市民の日常生活に大きく関わるものであるため。
	2	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	3	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	3	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	4	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	事業者の選定については、金額的評価のみではなく、創造力や企画力、経験なども加味したプロポーザル方式を導入したため。
	3	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	関係機関との協議を引き続き行っていくことにより、改善検討案の実現性を高めることができるため。
	4	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	実態や課題、改善検討案等を示したことや、各関係機関との問題意識の共有化が図れたため。
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.おおよそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>駅利用者アンケート調査や交通量観測調査などの実態把握を行ったことで、駅周辺の交通問題を検討する基礎資料ができたとともに、その問題解決に向けた改善対策案について、道路管理者や警察などの関係機関とも調整しながら検討したことで、各関係機関との問題意識の共有化が図れた。</p>					
事業に対する市民の意見、反応	<p>駅利用者アンケート調査結果では、アクセス交通に関する問題点として、草津駅、南草津駅ともに「雨の日の自動車の混雑が激しい」という割合が一番多く、全体の30%超を占めていた。また、自動車送迎者の割合は、8～10%であるが、雨天時になるとその割合が16～17%と2倍近く上昇している。他に、駅の東西いずれかの自家用車の利用規制に関する質問に対して、反対側ロータリーを利用するという回答が、草津駅ではそれぞれ11～12%であったのに対して、南草津駅では27%という結果であった。</p>					
事業の今後の課題、将来展望	<p>対策検討案については、道路管理者や警察、交通事業者等の多くの関係者が関わっており、今後も関係者との継続的な協議が必要とされる。また、各案の制約条件等から実現可能性を整理し、交通政策部局と道路管理者等で協議の上優先順位を定め、相互に協力しながら事業実施に向けて取組を進めていく。</p>					
※平成29年度の 予算措置	予算額 (千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		0				0
	28年度比 積算根拠	0%				

※ 当該事業が平成28年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。